



加古川市立志方東小学校  
 令和5年度  
 学校便り夏休み特別号  
 第12号  
 R5.8.16発行

## 残暑お見舞い申しあげます



立秋が過ぎたとはいえ、あくまで暦の上でのこと。15日にはお盆台風7号がさまざまな影響を及ぼしました。今年は、災害級の暑さと言われる日が続き、まだまだ夏本番といったところです。もはや夏という季節を楽しめる気候ではなくなってきているのかもしれませんが。熱中症にかかる割合は屋内が約半数にのぼると言われています。体調を崩さないよう、皆様方におかれましては、お身体ご自愛ください。

## 疑問に踏み出す勇気を学ぶ 夏休みの自由研究

6年生の Classroom をのぞいてみたところ、「自由研究ができたよ」とスライドを投稿している児童がいました。夏休みの自由研究について、8月10日付神戸新聞で記事を見つけたので概略を紹介します。文部科学省によると自由研究は昔は国語や算数と同じ教科の一つで、1947年の学習指導要領に初めて登場しました。「自由研究」という教科名で、小学4～6年生で週に2～4時間という目安で授業がありました。目的は、子どもの自発的活動を促すことで、個人の興味と能力に合わせ、他の教科で十分に学べないことを教員の指導下で補おうとしたようです。どんなテーマが選ばれてきたのかというと、夏休みなので植物や昆虫の観察が代表的ですが、実に多様で最近では新型コロナウイルス感染症や地球温暖化、プログラミングに関する研究も目立つそうです。自由研究は何の役に立つのかについては、千葉和義教授（お茶の水女子大）が、「世の中には答えがあるかどうかも含めて分からないことがあり、そこに踏み出す勇気は実社会でも必要な資質です。自由研究でその勇気を学ぶことができます」と話しています。今年、どのようなテーマの自由研究が提出されるか、とても楽しみになってきました。（夏休み作品展：9月6日～8日開催）



## 読むことの喜びを教えてください本 紹介します

◎『世界でいちばん透きとおった物語』杉井 光（新潮文庫）

【あらすじ】宮内彰吾が、癌に侵され、闘病ののち、61歳でこの世を去った。彼は著名なミステリ作家だった。生前、女性に対して奔放だった宮内は既婚者でありながら愛人との間に子供を授かっていた。それが、僕である。異母兄弟から連絡があり、遺作を出版したいのだが原稿がないという。タイトルは「世界でいちばん透きとおった物語」らしい。宮内とは会ったこともない僕だが、文芸編集者の霧子さんとともに、遺稿を探すことになる。

書店のポップには「SNSで今一番バズっている本」とありました。また、本の帯には「紙の本でしか体験できない感動がある！」とあります。各新聞の書評などで絶賛されていたので興味本位で読みましたが、残すところ約30ページになったとき、「まさか!!」と思って数ページ戻り、その仕掛けに驚かされ「ええ〜っ!!」と叫びました。（もちろん心の中で）そして、最後の最後で鳥肌が立ちました。たとえではなく本当にそんな体験をし、久しぶりの読後感で、紹介したくなりました。すごい本です。作者の並々ならぬ熱意と努力に脱帽。くれぐれも、ネタバレ厳禁です。